

鳥取県青少年育成アドバイザー 協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 63号
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
発行日 2013. 4. 13
編集 芳村恵子

鳥取県青少年育成アドバイザー研修会

平成 25 年 3 月 2 日

出席者 山本会長 西浦 菊澤 新川
西上 松原 植嶋 芳村
場所 倉吉市上井町「呂路」
講師 西上 洋治氏
テーマ

「ありがとう 100 回運動の
： 更なる発展を願って」

「しつけとは、本来脳の働きをよくするためにするもので、習慣をつけることだと勘違いしない。考えさせることである。」と、『ありがとう』が言える子どもにするには」をキーワードに、話が始まった。

まず、どんな時に「ありがとう」を言いますかという問いかけがあった。物を貰った時、努力しないで得をした時…。ならば、得をしなかったら、「ありがとう」ではないのか。

そこで、子どもの脳を働かせる。大人が、特に母親がどんな時に「ありがとう」を言っているのかによって、「ありがとう」の意味と言葉の使い方が理解され、言えるようになる。例えば、お母さんが『私メッセージ』で、「お母さんが作ったご飯、しっかり食べてくれて嬉しかったわ。ありがとう。」など。

「ありがとう」は相手に対するお礼だけでなく、自分自身が嬉しい気持ちになったことを伝えることも、やっぱりありがとうである。

また「ありがとう 100 回運動」の講演会での様子も聞かせて頂いた。講演会に出向かれた多くの保育園で、西上さんの優しい眼差しとお母さん方の笑顔が目につかぶようだった。



最後に、90 歳のお母さんの介護を通して、「自分が親の世話ができて嬉しいと感じている。」とお話された。そして、「あれするな、これするなと言ってもやり続ける。〇〇してくれてありがとうと言うと、〇〇だけするようになる。」とも話された。

良い人間関係は、「美味しい・楽しい、気持ちいいを共有する間柄である」と言われる。その気持ちを丸ごと包み込むものが「ありがとう」という言葉と心なのだと感じた。

(芳村)

ひとあし遅れの春らんまん

若桜町の新入り 植嶋しのぶ

さくらの花のうすもも色、芽吹いた柳のきみどり色、遅めに咲いた菜の花のうす黄色・・・今、若桜は花盛り、春の色はどれも淡くぼんやりと曖昧な色の組み合わせで・・・だから人の心もほんわかとするのでしょうか。

若桜にもやっと「春の色たち」が揃いました。鳥取市内に遅れること約 1 週間。毎朝、鳥取市内への通勤途中（帰りは暗くて辺りは見えません!）、山や畑や人家（ひとげ）の



庭に咲き誇る花をキョロキョロと楽しみながら車を走らせています。そして、市内の花が散り始める頃、今度は若桜の花を楽しめます。そう、「ひとあし遅れは二度おいしい」です。

前置きが長くなりましたが、曖昧な玉虫色がだいすきな、若桜町のさらにちょっと奥の植嶋と申します。2月の研修会では、仲間入りをさせて頂きましてありがとうございました。これから、みなさま方のお話を聞きながら勉強していきたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

裏面に続く

近頃の世の中では「正確にかつ迅速に」を求められ、常に一本ぴんと張りつめていなければならない現実。「早いがごっそう」と手際よくこなす人が喜ばれ生き残っていき、要領が悪く手のおそい人は「指導」の対象に…。ゆっくりとおっとりした子育てをしていたら潰されそう、と感じることもあります。

若桜町内よりさらにちょっと奥の我が家の庭に、今、やっと雪柳の花が咲き始めました。時にあらずば声もたてず・・・人だって時がくればいつかは花咲く、2番手3番手で何が悪い、とぼーんやり考えながら「ひとあし半遅れは三度おいしい」をゆっくり味わっています。

「地域の宝」としての新入生を
迎えるボランティアの皆さん
～ありがとうございます～

新川裕二

4月9日、県内の多くの学校が入学式を迎えました。それぞれの学校で、地域の宝である新入生が入学してきました。各学校では、新しい体制で夢をふくらませながら本格的なスタートを切られたことでしょう。

そして、春の交通安全運動の期間には、学校はもちろん、地域の皆さんが、子どもたちの安全のためのボランティアやあいさつのボランティアとして地域の至る所に立っていただいています。



私の4月から勤務している学校は、400人近い児童数の中規模の学校ですが、そこにおられる地域の皆さんの学校への応援はともすごいです。

ちなみに、倉吉市は学校支援ボランティアの取り組みを全学校で取り入れています。

そして、本校は、子どもたちや学校のために多くの地域の皆さんがボランティアとして関わっていただいています。感謝の気持ちでいっぱいです。「ありがとうございます。」

青少年育成の原点は、「子どもが好き。」
「できることを、できることから」だと思います。団塊世代の退職が進む中、是非、退職後の人生の再出発を、地域の宝である子どもへの支援に関わり、人生を二倍楽しんでいただければいいと思います。

私たちの仲間で顧問をしていただいている伊藤先生も毎朝、安全ボランティアで子どもたちと笑顔で活躍していただいています。青少年育成アドバイザーの皆さんが、日々の取り組みをとおして子どもたちを育てていることを広く知っていただき、その小さな取り組みが益々広がっていくように努めていきたいと思っています。



編集後記

今年の春の訪れは、猛スピードで走ってみたり腰掛けたり引返したりと、寒暖の差に翻弄させられました。お陰で花見のタイミングを逸した人もいらしたようです。

それでも、クリーニング屋の30%OFFを予告するチラシに、季節の変化を感じています。

今年は、新しい仲間を迎えました。一層「地域のおじさん・おばさん」として子ども達の幸せな笑顔に貢献できたらと思います。

次回も、原稿お待ちしております。

oine.oine.oinechan@fork.ocn.ne.jp
(wordで入れてください)